東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅰ　**66**: 199－210，2015.

# 大学生におけるインターネット利用と右傾化

## ―― イデオロギーと在日コリアンへの偏見[1] ――

高　史明*・雨宮　有里**・杉森　伸吉***

学校心理学分野

（2014年9月30日受理）

### 1．問題

#### 1．1　本研究の目的

近年，インターネットが急速に普及し，日本では全人口の60%近い人々がインターネットを利用し，青年層ではこの比率は90%近くに達している[1)]。これに伴い，インターネット上での保守反動的，また差別的な言動が社会問題化し，“ネット右翼（*net uyoku* もしくはnet right）”の語が2000年代後半以降，国内外で報じられるようになった[2) 3) 4)]。辻[5)]は，（1）韓国・中国に親しみを感じないと回答し，（2）首相や大臣の靖国参拝，9条改憲，小中学校での国旗掲揚・国歌斉唱，小中学校での愛国心教育の全てを支持すると回答し，（3）インターネット上で最近1年間以内に政治的な議論を行ったことがあると回答する，という全ての条件に当てはまることという定義を用い，“コアなネット右翼”はインターネット・ユーザーの1%程度と少数に過ぎないと推計している。しかしながらこの背景には，この保守反動的な言動を許容し，あるいはその影響を受ける多数のインターネット利用者が存在すると考えられる。そこで本研究では，“コアなネット右翼”に焦点を絞るのではなく，一般的な人口（大学生サンプル）を対象に，インターネットの使用がどのような保守的イデオロギーおよびレイシズム[2]の傾向と結びついているのかを検討するというアプローチを取る。またあわせて，伝統的なメディア（i.e., テレビ，新聞）との接触量とイデオロギー，レイシズムの関係についても検討を行う。大学生をサンプルとしたのは，この年代がインターネットを利用する比率が最も高く（90%弱），特に“ネット右翼”の活動の場となっている掲示板サイトの利用（30%強）やウェブサイト・ブログの開設（20%弱）の比率が最も高いのもこの年代である[1)]ため，インターネットが一般人を右傾化させる影響，あるいはインターネットの保守的で差別的な言論を許容する土壌が何であるのかを調べる上で，もっとも重要であると考えられたからである。また，在日コリアンに対する偏見の質問紙を一般のサンプルにおいて実施した場合，高い回収率が見込めそうにないことも，理由の一つに挙げられる。

#### 1．2　保守的イデオロギー

保守反動的，また差別的な行動の背景には，個々の態度を規定する要因である保守的なイデオロギーがあると考えられる。保守的イデオロギーとして概念が確立されているものには，右翼的権威主義（Right-Wing Authoritarianism[6)]）と社会支配指向（Social Dominance Orientation[7)]）がある。

右翼的権威主義は，Adornoら[8)]の古典的な権威主義的パーソナリティ概念を実証主義的に発展させたものである。（1）権威者に盲目的に従う“権威主義的服従”，（2）権威者が攻撃するよう指示した対象に対する，あるいは権威に背くものに対する“権威主義的攻撃”，（3）伝統と慣習に固執する“因習主義”からなり[6)]，他人種・民族，同性愛者を始め様々な対象への偏見や保守反動的な政治的態度を予測するとされている（e.g., Altemeyer[6)]）。当初はパーソナリティと考えら

＊　神奈川大学・東京学芸大学
＊＊　東京女学館大学
＊＊＊　東京学芸大学（184-8501　小金井市貫井北町 4-1-1）

れていたが，近年ではパーソナリティに規定され個別的な態度との間を媒介するイデオロギーと考えるのが一般的である[9]。

また，社会支配指向は，社会を競争の場と考え，集団間を優れた―劣ったという次元で捉え，格差の存在を是認するイデオロギーである[7]。このイデオロギーは他人種・民族，女性に対するものをはじめとする様々な偏見や，差別撤廃運動や環境保護運動への否定的態度，反平等主義，ナショナリズムなどの政治的態度に関係するとされる（e.g., Pratto et al.[7]）。

両者はともに保守的なイデオロギーであるが，保守という言葉の指す意味は異なっている。右翼的権威主義が，世界を危険だと考えこの脅威を回避するには既存の社会秩序を守らなければならないと考える文化的保守主義であるのに対して，社会支配指向は不平等を肯定し，競争的社会を支持する政治経済的な保守主義である[9]。したがって，両者はともに保守的な態度を予測するものの，ときに異なる振る舞いを示す。例えば，右翼的権威主義が危険な外集団（犯罪者，薬物使用者など）に対する否定的な態度をより予測するのに対して，社会支配指向は軽蔑できる外集団（身体的魅力の無い人々，精神障害者，移民など）への否定的な態度をより予測する[10]。また，右翼的権威主義者は，既存文化への脅威と見なされる現地文化に同化しようとしない移民に対して，迫害する意図を抱きやすい。これに対して社会支配指向の持ち主は，社会成層への挑戦とみなされる，現地文化に積極的に同化しようとする移民に対して，迫害する意図を抱きやすい[11]。したがって，インターネット利用者がいかなる意味で保守的であるのかを明らかにすることは，そこから生じる社会問題への対処法を考えるために重要であると考えられる。

### １．３　レイシズム

現在の日本における差別的な態度として，本研究では３種類のレイシズムの指標を扱う。一つ目は，ある人種・民族集団は劣っているとする露骨なタイプの偏見，古典的レイシズム（Old-Fashioned Racism[12]）である。二つ目は，（1）差別は既に存在せず，（2）格差が現に存在するとすればそれはマイノリティの努力の欠如によるものであり，（3）したがってマイノリティが不平等について不平を訴えることは不当であるにもかかわらず，（4）彼らは不平を唱え，不当な特権を得ている，とする現代的レイシズム（Modern Racism[12]）ないし象徴的レイシズム（Symobolic Racism[13]）である。高[14]，高・雨宮[15]は，在日コリアン[3]に対する偏見においても，古典的レイシズムと現代的レイシズムの区別が可能であることを示した。現代的レイシズムは一見穏健な装いをまとっているが，しかしやはりマイノリティへの同時に対処することの困難な不満などに繋がるものであり[15]，問題である。“ネット右翼”のうちでも特に過激なヘイトグループの多くも，“在日特権を許さない市民の会”がその名称に掲げているように，在日コリアンは特権を受けていると主張している。

海外における研究では，van Hiel & Mervielde[16]が，右翼的権威主義と社会支配指向がKleinpenning & Hagendoom[17]の生物学的レイシズム（古典的レイシズムに相当する）と象徴的レイシズム（現代的レイシズムに相当する）をそれぞれ同程度に予測することを示している。そのため，本研究においても，右翼的権威主義と社会支配指向が古典的レイシズムと現代的レイシズムを予測するかについて検討した。

また，２種類のレイシズム尺度に加えて，本研究では感情温度も用いた。感情温度は，特定の信念に基づく古典的レイシズム尺度や現代的レイシズム尺度に比べて，より純粋な好き／嫌いの態度を反映する指標として用いられてきたものである（e.g., Sears & Henry[18]）。これら３種類の指標を比較することで，メディアの影響が，主としてレイシズムの感情的な側面に働くのか認知的な側面に働くのかを検討することとした。またイデオロギーとの関係では，上述のように社会支配指向と右翼的権威主義のどちらが感情温度を予測するかの検討を通じて，在日コリアンが“軽蔑できる集団”として認知されているのか，“危険な集団”として認知されているのかを明らかにする。

### １．４　インターネットとイデオロギー，レイシズム

Melican & Dixon[19]は，インターネットのニュースを信用する回答者ほど現代的レイシズムが強いことを示している。しかしこの研究は古典的レイシズムを測定していないため，インターネット使用者では現代的レイシズムのみが選択的に強いのか，種類を問わずレイシズムが強いのかが明らかではない。本研究では古典的レイシズムと現代的レイシズム，これらの偏見より認知的要素が少なくより直接的な感情的側面を測定する指標である感情温度，それらの先行要因としての右翼的権威主義と社会支配指向を測定し，メディアとの接触量との関係を検討した。

メディアとイデオロギーの因果関係は２通りが考えられる。一つは，メディアとの接触が保守的イデオロギーを強めるという因果関係である。メディアは世界

がいかなる場所であるか，他者がいかなる存在であるかの重要な情報源である（e.g., Gerbner et al.[20]; Tyler[21]）ため，イデオロギーやレイシズムの変容をもたらしうる。もう一つの可能性は，保守的なイデオロギーの持ち主ほど特定のメディアを好んで利用するという因果関係である。これは，人が自分の態度に合致した情報の多いメディアに選択的に接触する[22]ことから説明できる。

これに対してメディアとレイシズムの関係は，在日コリアンへのレイシズムが日常的な生活を規定するほど影響力を持つという因果関係は想定しにくい。そこで，メディアとの接触量がレイシズムに影響するという方向の因果関係のみを仮定した。

## ２．方法

### ２．１　回答者

東京都の大学生206名が授業の一環として匿名で調査に参加した。回答者は報酬として講義成績への加点を得たが，このための記名用紙は質問紙とは別に回収された。また，他の研究に使用するため回答者は自分で生成したIDを質問紙に記入したが，このIDは本研究では用いられなかった。平均年齢は18.4歳（SD = .95）であり，男性81名，女性122名，無回答３名であった。

### ２．２　質問紙

質問紙は，30分弱を要する一連の調査の一環としてなされた。

質問１は高・雨宮[15]の在日コリアン版古典的レイシズム尺度と現代的レイシズム尺度の計14項目を交互に配したもので，７件法であった（数値が大きいほどネガティブ：逆転項目を除く）。在日コリアンについては，各項目には在日朝鮮人という語を用い，質問１の冒頭でこの語が“在日北朝鮮人”[4]・韓国人を合わせた語であると明記した。

質問２で感情温度を問うた。

質問３～５，７～８は本研究には用いられなかった[5]。

質問６で右翼的権威主義尺度34項目[6]および16項目版社会支配指向尺度[7]を和訳したものを７件法で問うた。

質問９で性別，年齢，国籍を問うた。また，“平均して一日に何時間ぐらいテレビを観ますか？　____時間____分”，“平均して一日に何時間ぐらいインターネットを利用しますか？　____時間____分”，“平均して週に何回ぐらい新聞を読みますか？　____回”の各設問を用いた

回答者を含む講義受講者は，後日講義時間中に研究目的と結果についてのフィードバックを受けた。

## ３．結果

### ３．１　記述統計

日本国籍であると回答しなかった回答者１名を除外した。レイシズム尺度は，高[14]に基づき，古典的レイシズム尺度は６項目（α = .69, *M* = 2.42, *SD* = .93），現代的レイシズム尺度は４項目(α = .71, M = 3.22, SD = .97)のみを用い，算術平均を尺度得点とした。

右翼的権威主義尺度は，Altemeyer[6]に従い，最初の４項目は練習項目として分析から除外し，算術平均を算出した（α = .72, *M* = 3.26, *SD* = .50）。社会支配指向は，全16項目の算術平均を算出した（α = .85, *M* = 3.58, *SD* = .77）。

メディアとの接触量はそれぞれ，一日のテレビの視聴時間（*M* = 1.80, *SD* = 1.34, *Me* = 1.50），インターネットの使用時間（*M* = 1.29, *SD* = 1.28, *Me* = 1.00），一週間の新聞講読回数（*M* = 1.60, *SD* = 2.30, *Me* = 0）であった。これらは正規分布から外れていたため，以降の分析ではテレビとインターネットについては対数変換（$\log_{10}[x+1]$）したものを用いた。また新聞については，全く読まない回答者がほぼ半数（109名）であったため，全く読まないか読むことがあるかの２値で扱った。

### ３．２　相関

年齢，性別，メディアとの接触量，イデオロギー，レイシズムの相関をTable１に示す。国内外での研究から，女性の方が社会支配指向が弱く（e.g., Pratto et al.[7], Sidanius et al.[23]），レイシズムが弱く（e.g., Johnson & Marini[24]; Sidanius et al.[23]，高[14]），新聞の講読頻度が少ない[25]と考えられたため，性別も分析に用いられた。また，高[14]において，大学生サンプルにおいても年齢とレイシズムの相関が見られたことから，年齢も分析対象に加えた。ただし，本研究の回答者のほとんどは第１学年で占められているため，年齢の分散はほとんどない。

インターネットの使用時間は，古典的レイシズム，現代的レイシズムとのみ正の相関があり，またテレビの視聴時間および社会支配指向と有意傾向の正の相関があった。一方，右翼的権威主義および感情温度とは相関はなかった。テレビの視聴時間は，心理変数では

Table 1　メディアへの接触頻度とイデオロギー，レイシズムの相関

| | 年齢 | インターネット | テレビ | 新聞（読む） | 右翼的権威主義 | 社会支配指向 | 古典的レイシズム | 現代的レイシズム | 感情温度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 性別（女性） | -.16* | -.01 | .00 | -.23** | .03 | -.28*** | -.20** | -.17* | .20** |
| 年齢 | | .09 | .01 | .16* | .09 | .08 | -.06 | -.04 | .04 |
| インターネット | | . | .12 † | .08 | .07 | .13 † | .14* | .18** | .00 |
| テレビ | | | | -.01 | .02 | .04 | .12 † | .01 | -.12 |
| 新聞（読む） | | | | | .14* | .05 | .02 | .03 | .00 |
| 右翼的権威主義 | | | | | | .02 | .20** | .25*** | -.05 |
| 社会支配指向 | | | | | | | .36*** | .17* | -.30*** |
| 古典的レイシズム | | | | | | | | .48*** | -.54*** |
| 現代的レイシズム | | | | | | | | | -.32*** |

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$, † $p < .10$

古典的レイシズムとのみ有意傾向の正の相関があった。新聞の講読の有無は，心理変数では右翼的権威主義とのみ有意な正の相関があった。

２種類の保守的イデオロギーは，右翼的権威主義と感情温度の間を除き，それぞれイデオロギーとレイシズムの間に相関があり，いずれも保守的イデオロギーが強いほどレイシズムが強かった。一方で，右翼的権威主義と社会支配指向の間には相関はなかった。各種のレイシズムの指標の間には，ある指標でレイシズムが強いほど他の指標でもレイシズムが強い方向に相関があった。

国外での研究[7) 23) 25)]と同様，女性の方が新聞を読むことが少なく，また社会支配指向が弱かった。先行研究[14) 23) 24)]より女性の方がレイシズムが弱いと予測されていたが，これは全ての指標に当てはまった。また，本研究のサンプルに特有の傾向として，性別と年齢には負の相関が見られた。

### ３．３　構造方程式分析

次に，メディアとの接触とイデオロギーおよび偏見の関係を，構造方程式分析を用いて検討する。いずれかの変数で欠損値のあった４人がさらに分析から除外された。

まず，性別から年齢，社会支配指向，全てのレイシズム，新聞の講読へのパスを仮定した。さらに，全てのメディアとの接触量から２種類のイデオロギーと全てのレイシズムへのパス，２種類のイデオロギーから全てのメディアとの接触量と全てのレイシズムへのそれぞれのパス，レイシズムの誤差項間の共変動を仮定し，最尤法を用いて推定値を算出し，有意でないパスを削除して再分析を繰り返した。テレビの視聴時間を含む全てのパスは有意でなかったためこの変数を除外した。また，インターネットの使用時間から社会支配指向へのパス，社会支配指向からインターネットの使用時間へのパスは同時に投入するといずれも有意でなくなるが，どちらか一方を残すとそれぞれ有意であったため，相関関係とした。新聞の講読と右翼的権威主義の間のパスも同様の処理を行った。年齢は，仮定することでモデルを改善できる年齢からのパスが存在しなかったため，削除した。その結果，最終的に採択可能なモデルを得た（$\chi^2$ (14) = 12.7, $p > .54$, GFI = .985, AGFI = .961, RMSEA = .000）。結果をFigure 1 に示す。

インターネットの使用時間と社会支配指向の間には正の相関があった。社会支配指向は全てのレイシズムを強める方向に有意な効果があった。また，インターネットの使用時間は，現代的レイシズムを直接強める効果もあったが，古典的レイシズムへの効果は有意傾向で，感情温度には直接の効果は及ぼさなかった。また，インターネットの使用時間は，右翼的権威主義に対しては効果を及ぼさなかった。これに対して，新聞の講読と右翼的権威主義との間には正の相関があった。右翼的権威主義は，現代的レイシズムと古典的レイシズムをともに強める効果があったが，感情温度には影響しなかった。

## ４．考察

### ４．１　概要

本研究では，メディアとの接触量と保守的イデオロギー，レイシズムの関係を検討した。

その結果，インターネットを使用する時間が長い大学生ほど，古典的レイシズムと現代的レイシズムが強いこと，また社会支配指向も強い傾向があることが示された。その一方で，インターネットの使用時間は右翼的権威主義および感情温度とは相関しなかった。したがって，近年問題となっているインターネット上の

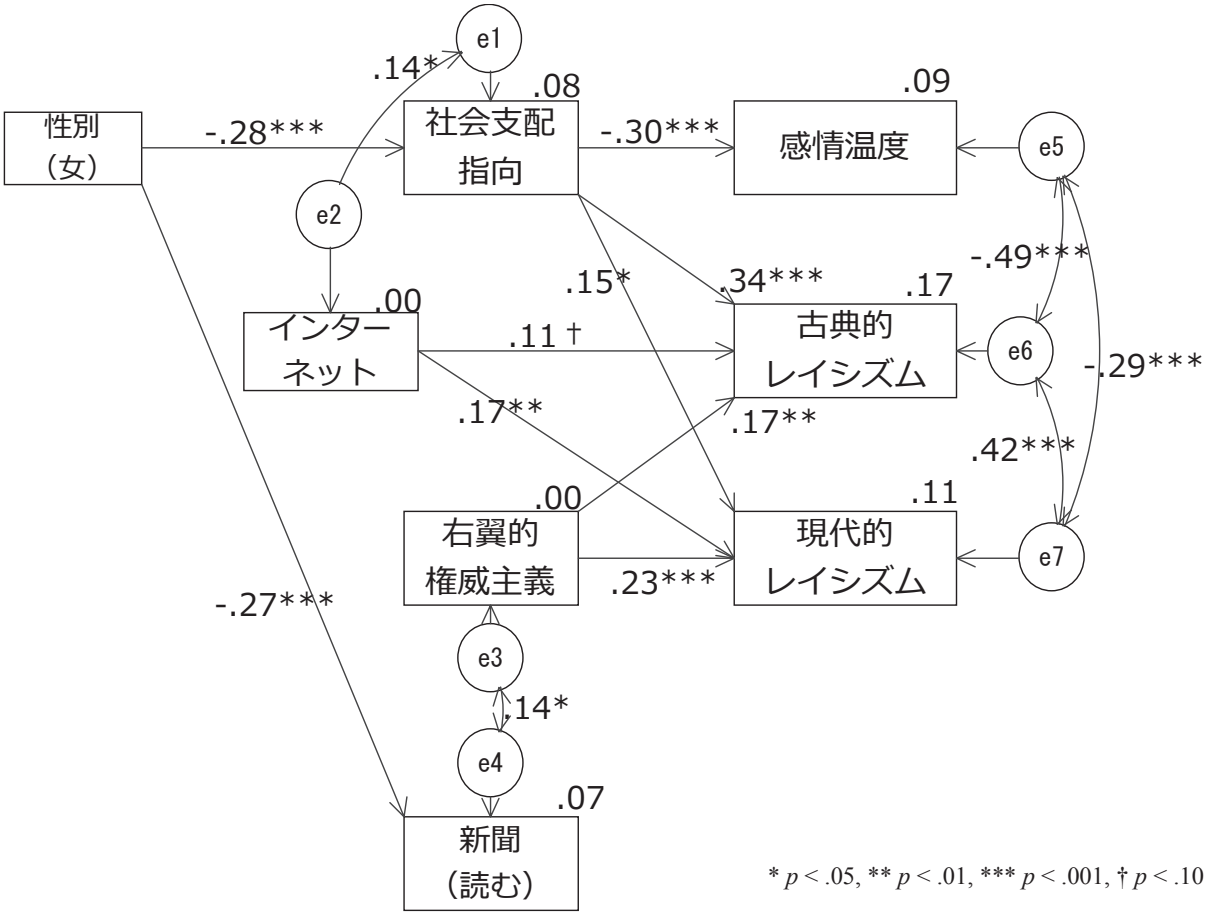


Figure 1　メディアへの接触頻度，イデオロギー，レイシズムによる構造方程式分析

保守反動的で差別的な傾向（e.g., Fackler[3] ; Johnston[2]）とは，少なくとも一般の大学生においては，不平等を肯定する傾向，在日コリアンが特権を得ていると考える傾向および在日コリアンが劣っていると考える傾向の強まりであり，変化を怖れ権威に服従する傾向や，在日コリアンに対する主として感情面でのレイシズムの強まりではないと考えられる。

### 4．2　インターネットと社会支配指向

構造方程式分析の結果は，インターネットの使用と社会支配指向の間に結び付きがあることを示している。この理由はいくつか考えられる。

まず，インターネットの使用が社会支配指向を強める可能性について述べる。

考えられる理由の一つは，インターネット上のコミュニケーションの性質によるものである。まず，インターネットが日常的に競争と葛藤を経験させることが原因となっている可能性がある。インターネット上では利用者間の相互作用が盛んになされるが，伝統的なメディアと異なり，相互作用に通常伴う非言語的な手がかりが少ないことによって脱個人化が生じ，非抑制的な行動を行いやすい[26]。アメリカでの少年に対する調査では，インターネット上で１年以内に他者から侮辱や攻撃的なコメント，噂の流布などの嫌がらせを受けたと報告した回答者は34%に上っていた[27]。このようにインターネット上で日常的に葛藤や競争を経験する結果，競争的な認知傾向が形成されるのかもしれない。実際，高比良・安藤・坂元[28] の縦断的調査によれば，ツール別では“Eメールの使用”や“BBSへの投稿”が，目的別では“ネットで知り合った友達とのやりとり”や“新しい友だちづくりのため”のインターネット利用が，日本版Buss-Perry攻撃性質問紙[29] における“敵意”の下位尺度を強めることが，明らかにされている。

インターネットの性質による説明のもう一つのものは，インターネットを用いて主体的に情報にアクセスしたり，あるいは情報を発信したりすることで高まる自己効力感[30] が，普遍的な人間観・世界観に影響するというものである。実際，インターネット上のニュースを見たり政治的なメッセージを送ったりする

ことは政治的内的自己効力感と正の相関がある[31]。ただし，自己効力感の上昇が社会支配指向の上昇に繋がるかどうかは，未解明である。

また，インターネット上のコミュニケーションの性質の偏りによるのではなく，インターネット上の情報の内容が偏っているためという可能性も考えられる。これは，現にヒエラルキーを肯定するような情報が優勢になっているために，インターネットの利用がそうした情報への接触をもたらすことになり，社会支配指向を強めるというものである。ただしこの場合にも，なぜそのような情報が優勢になったのかの解明が必要となるであろう。本研究は大学生サンプルを用い，インターネット全体の利用時間を指標として用いたものであったが，他の年齢層にも共通して同様の効果が見られるのか，また利用形態によって効果が異なるのかの検討は，有益な示唆を与えるであろう。これらの点については後述する。また，これまでに流通したコンテンツの歴史的な推移の分析や，他の言語を用いるインターネット・コミュニティとの比較も有益であるかもしれない。

インターネットを利用する人ほど社会支配指向が強まるという因果関係である可能性がある一方で，社会支配指向が強いほどインターネットを利用するようになるという因果関係である可能性もある。これはメディアに対する選択的接触[22]により説明可能であるが，インターネット上の情報が集団間のヒエラルキーを肯定するようなものに偏っているかどうかは，今後明らかにされる必要がある。

### ４．３　インターネットとレイシズム

インターネットの使用は，レイシズムのうち，現代的レイシズムを強め，古典的レイシズムも強める傾向があったが，感情温度には影響しなかった。インターネットの使用が感情温度の低下には結びつかなかったことから，この影響は好き／嫌いという態度のレベルではなく，信念（belief）により強く及ぶ，主として認知的な経路を通じたものであることを示唆している。

国外の研究では，伝統的なメディアでは黒人は犯罪の加害者として過度に頻繁に登場することが示されている[32]。このような偏りは，日本のインターネットにおける在日コリアンについての言説にも見られるのかもしれない。例えば，高[33][34]は，Twitterにおけるコリアンについての言説では“犯罪”などの古典的レイシズムに関係する語や，“生活保護”“特権”などの現代的レイシズムに関係する語が多く見られることを示している。このような偏りがなぜ生じているのかは今後解明される必要があるが，藤田[35]は日本においてはインターネットの使用は排外主義と正の相関がある一方でアメリカでは排外主義と負の相関があることを示しており，インターネット上の情報においてマイノリティにとってネガティブなものが優勢となるのは通文化的な現象ではない可能性もある。上述のインターネットの使用と社会支配指向との関係と合わせて，解明すべき点である。

### ４．４　他のメディアの影響

Gerbnerら[20]は，テレビが“卑劣で危険な世界観”を視聴者に植えつける可能性を指摘した。“危険な世界観”は右翼的権威主義の予測要因であることが実証されている[9]。しかしながら，本研究においては，テレビの視聴時間は右翼的権威主義とは相関していなかった。テレビがもたらす“危険な世界観”の効果は，少なくとも今日の日本の学生が試聴する番組と時間の範囲内では，右翼的権威主義の変化をもたらすほど大きくはないか，あるいはテレビの持つ他の要因のために打ち消されている可能性がある。

新聞の講読は右翼的権威主義と正の相関があった。ただし，本研究では講読紙については質問していないため，新聞の内容に基づく選択的接触[22]や，特定の新聞を読むことが右翼的権威主義を強めていたという説明以外に，オールド・メディアである新聞が権威を帯びていることで説明することも可能である。もっとも，新聞はテレビに比べて新聞社ごとにイデオロギー上のニッチを占めることが多いため，講読紙の種別を分析に加えれば，本研究では示されなかった影響を検出することが可能かもしれない。特に，新聞は同居家族単位で講読するのが一般的であるため，イデオロギーやレイシズムの世代間伝達について考察する場合には，重要な変数たりえるかもしれない。

### ４．５　他の諸変数の検討

資本主義国においては，一般に右翼的権威主義と社会支配指向の間には正の相関が見られる(e.g., Duckitt[9]; Duriez, et al.[36]が，本研究では相関は見られなかった。Duckitt[9]の図式によれば，アメリカ的な右派（右翼的権威主義も社会支配指向も高い）―左派（右翼的権威主義も社会支配指向も低い）の対立図式が鮮明な社会においては，両者の間に強い相関が見られると考えられる。これに対して，日本の，特に若者の大多数は政治的党派性が明瞭でないために，両者の間に相関が見られなかったのかもしれないが，この点

は明らかではない。

女性はレイシズムが弱い（e.g., Johnson & Marini[24]；Sidanius et al.[23]；高[14]）ことが国内外における研究で示されている。本研究においても女性の方が全ての指標においてレイシズムが弱かったが，この効果は社会支配指向に媒介された。レイシズムの性差が社会支配指向によるものであるという点は，Sidaniusら[23]と同様の知見である。

感情温度には右翼的権威主義は影響せず，社会支配指向のみが影響した。Duckitt & Sibey[10]は，（1）社会支配指向が感情温度を予測する“軽蔑できる集団”，（2）右翼的権威主義が感情温度を予測する“危険な集団”，（3）社会支配指向と右翼的権威主義の両方が感情温度を予測する“意見の異なる集団”の３つのカテゴリに，外集団を分類している。今回の結果は，在日コリアンが，“軽蔑できる集団”にあたることを示すものであった。

### ４．６　今後の展望

本研究は一般的な大学生サンプルを対象に，メディアとの接触量とイデオロギー，レイシズムの関係を検討した。その結果，インターネットに接する時間が長いほど社会支配指向が強く，現代的レイシズムが強くなることが明らかになった。また，古典的レイシズムも強まる傾向があった。今後の展望として，インターネットを使用するほど社会支配指向が強いことの示唆およびインターネットと社会支配指向の関係について考察する。

まず，インターネットと社会支配指向の間の正の相関の示唆について述べる。佐藤ら[37]は主に税負担についての項目を用いた平等主義的態度がインターネット使用者では弱いことを示しているが，このような個別的な態度を予測するより広範なイデオロギーである社会支配指向に差が見られたことは，他の様々な個別的態度の予測について示唆を与える。社会支配指向は，在日コリアン以外にも，様々な対象への偏見や政治的態度を予測することが示されている。社会支配指向の持ち主は身体的魅力の無い人々や精神障害者，太った人，移民，主婦，無職者など社会的序列で下位に置かれやすい集団に対して偏見を抱きやすく[10]，したがってインターネット利用者は在日コリアン以外にもそうした様々な集団に対して否定的な態度を抱きやすい可能性がある。例えば，荻上[38]によれば，インターネット上での“炎上”は，発言者が男性の場合より女性の場合の方が，また日本人の場合より韓国人の場合の方が起こりやすい。これはある程度まではインターネット利用者が高い社会支配指向を持つことの結果かもしれない（あるいはこうした攻撃は他の原因によるものであり，こうした攻撃を頻繁に目撃することが社会支配指向を強めるという逆の因果関係かもしれないし，または双方向の影響かもしれない）。また保守的という言葉からイメージされる旧態然とした農村のイメージとは異なり，社会支配指向は現地文化に同化しようとしない移民よりも同化しようとする移民への否定的な態度をよりよく予測する[11]。日本における外国人住民はこの20年余りで倍増し2013年末には210万人近くに昇っている[39]が，これらの人々が日本文化を受容しようとするほど，それは日本人を上位に置く社会成層への挑戦と受け止められ，インターネット“世論”の反発を招く可能性がある。また，社会的格差を維持し，拡大するような政策は社会支配指向の持ち主には支持されやすく（e.g., Pratto et al.[7]），インターネット利用者に支持されやすいかもしれない。したがって，インターネットとの接触が社会支配指向の上昇を介してこれらの効果をもたらす可能性は検討されるべきである。

また，考えられる一つの，本研究とは異なるアプローチは，インターネット上の様々なサイトやサービスが，社会支配指向やレイシズムを支持するようなコンテンツやコミュニケーションをどのぐらい含んでいるかを分析することである。本研究はインターネット全体の使用時間を変数として使用した。しかしながら，インターネットの利用形態を，例えばLee[31]のように情報の収集，エンターテイメント，コミュニケーション，教育などに区分することも可能である。特に，辻[5]は一部掲示板サイトがいわゆる“ネット右翼”傾向に密接に関連していることを示している。このようなコンテンツの分析と利用形態を区別した分析を組み合わせて用いることは，社会支配指向とレイシズムがどのようにインターネットからもたらされるのかを仔細に検討する上で，重要なものとなるだろう。例えば，社会支配指向の高さが，インターネット上での攻撃的なやり取りの頻度と関係しているのか，それともヒエラルキーを肯定するような内容を含んだサイトの閲覧の頻度と関係しているのかを検討することで，インターネット上のコミュニケーションの性質による説明と内容による説明のどちらを採用するべきかが明らかになるかもしれない。

特に，本研究は大学生サンプルを対象としたものであったが，いわゆる“ネット右翼”の活動の盛んな掲示板サイトの利用は，15～19歳ではインターネット利用者の38%に上るのに対して，40～44歳では

15%，50～54歳では9%と低下する[1)]。したがって，単純なインターネットの利用時間の長短のみで右傾化傾向を予測できるという本研究の結果は，より高齢の成人サンプルにはそのまま一般化できない可能性があり，利用形態を考慮する必要があるかもしれない（逆に，本研究の結果は高齢の成人サンプルにも一般化できる可能性も残される。本研究は大学生サンプルを対象としたため，“大学生の”と題したが，インターネットの利用と社会支配指向および現代的レイシズム，古典的レイシズムの相関が若者のみに限定されるということを含意するものではない）。また，大学生サンプルにおいても利用形態を考慮に入れることで，右傾化傾向をより強く予測したり，右傾化傾向とは無関係な利用形態を除外したりすることが可能であろう。本研究は“インターネットの利用時間”を変数として用いたことで，インターネットに多様なサービスが存在することを捨象するものとなったが，その多様性は今後の検討において軽視されるべきではないだろう。また，イデオロギーを離れて個別具体的な態度や行動について考えるときには，荻上[38)]が紹介するように，インターネットに接することが向社会的な態度や行動を促進する場合もあることも忘れてはならないだろう。

なお，本研究ではインターネットとの接触と心理変数の相関がどのような因果関係でもたらされるのかについては，明らかにできていない。今後縦断的なデータを用いて明らかにされる必要がある。

## 脚注

1　本研究で用いられたサンプルは，高[14)]に用いられたものの一部である。また，本論文は第一著者が2014年3月に提出した東京大学大学院博士学位申請論文，“在日コリアンへのレイシズムの研究：現代的レイシズム理論に注目して”の研究6を再編集したものである。

2　人種raceと民族ethnicityはしばしば，生物学的背景の有無によって，異なる概念として定義される。しかしながらこの区別は，人種間の差異も生物学的背景を欠いているという科学的知見から考えても，一般人の理解という素人理論の面から考えても，必ずしも有益ではない[40)]。実際，The New Oxford American Dictionaryは，raceの定義としてethnicityを指すこともあるとしている[41)]。また，人種差別撤廃条約などにおいても，racial discriminationは民族差別も含むものとされている。そこで本研究では，人種偏見と民族偏見を特に区別せず，レイシズムracismの語を用いることとした。

3　在日朝鮮人という語は，朝鮮籍者（韓国籍以外で朝鮮半島に本籍を持つもの）のみを指す場合と，朝鮮籍・韓国籍者の両方を指す場合がある。そこで本論文では，両者を総称する際には，在日コリアンという語を用いることとした。ただし在日コリアンという言葉はさほど一般的でないため，質問紙においては在日朝鮮人という語を用い，それが“北朝鮮人”・韓国人の両方を指すと明記した。なお，“北朝鮮［朝鮮民主主義人民共和国］”の国籍は，日本では承認されていない。脚注4を参照のこと。

4　在日コリアンの（国）籍には韓国籍と朝鮮籍があるが，日本政府は北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）を国家として承認していないため，朝鮮籍は正確には北朝鮮国籍とは異なる。また，朝鮮籍者が必ずしも北朝鮮に対して帰属意識を持っているわけでもない。しかしながら一般の日本人が用いる社会カテゴリとして韓国人と対置する上では通例用いられるカテゴリであり，単に朝鮮人と書くよりも伝わりやすいため，質問紙では“北朝鮮人”というカテゴリ名称を用いた。このため，本研究では実際と照らしあわせて不正確な語を用いているのだが，質問紙で用いた用語であるため，編集せずにそのまま記載した。

5　これらは，在日コリアンとの接触に関するもの，公共政策への態度，宗教的態度に関するものなどで，他の研究に用いられた。

## 引用文献


1）総務省統計研修所：日本の統計2010，2010，<http://www.stat.go.jp/data/nihon/pdf/nikkatu.pdf>　2010年10月9日取得

2）Jonhston, E.: Net boards venue for faceless rightists, *The Japan Times*, 2006年3月14日.

3）Fackler, M.: A new wave of dissent in Japan is openly and loudly anti-foreign, *The New York Times*，2010年8月29日夕刊.

4）朝日新聞：世論挑発　集める支持――扇動社会5，朝日新聞，2010年5月17日，<http://www.asahi.com/special/sendoushakai/TKY201005070342.html>　2010年12月11日取得

5）辻大介：研究室からのメディア・リポート：調査データから探る「ネット右翼」の実態，Journalism，226，62-69，2009.

6）Altemeyer, B.: The authoritarian specter, Cambridge: Harvard University Press, 1996.

7）Pratto, F., Sidanius, J., Stallworth, L. M., & Malle, B. F.; Social dominance orientation: A personality variable predicting social and political attitudes. *Journal of Personality and Social*

*Psychology*, 67 (4), 741–763, 1994.

8） Adorno, T. W., Frenkel-Brunswik, E., Levinson, D. J., & Sanford, R. N.: The authoritarian personality, New York: Harper and Row, 1950.

9） Duckitt, J.: A dual-process cognitive-motivational theory of ideology and prejudice, In M. P. Zanna (Ed.), *Advances in experimental social psychology*, 33. San Diego: Academic Press. pp.41–113, 2001.

10） Duckitt, J., & Sibley, C. G.: Right wing authoritarianism, social dominance orientation and the dimensions of generalized prejudice, *European Journal of Social Psychology*, 21, 113–130, 2007.

11） Thomsen, L., Green, E. G. T., & Sidanius, J.: We will hunt them down: How social dominance orientation and right-wing authoritarianism fuel ethnic persecution of immigrants in fundamentally different ways, *Journal of Experimental Social Psychology*, 44, 1455–1464, 2008.

12） McConahay, J. B.: Modern racism, ambivalence, and the modern racism scale, In Dovidio, J. F. & Gaertner, S. L. (Eds.), *Prejudice, Discrimination, and Racism*, pp91–125, Orlando: Academic Press, 1986.

13） Kinder, D. R., & Sears, D. O.: Prejudice and politics: Symbolic racism versus racial threats to the good life. *Journal of Personality and Social Psychology*, 40, 414–431, 1981.

14） 高史明：在日コリアンに対する古典的／現代的レイシズム尺度の確認的因子分析と基礎的な検討．人文研究，180，69–86，2013.
(Taka, F.: Confirmatory factor analysis and basic investigations of old-fashioned and modern racism scales against Zainichi Koreans, *Studies in Humanities*, 180, 69–86, 2013)

15） 高史明・雨宮有里：在日コリアンに対する古典的／現代的レイシズムについての基礎的検討　社会心理学研究，28（2），67–76，2013.
(Taka, F., & Amemiya, Y.: A basic investigation of old-fashioned and modern racisms against Zainichi Koreans, *Japanese Journal of Social Psychology*, 28 (2), 67–76, 2013)

16） van Hiel, A., & Mervielde, I.: Authoritarianism and social dominance orientation: Relationships with various forms of racism, *Journal of Applied Social Psychology*, 35 (11), 2323–2344, 2005.

17） Kleinpenning, G., & Hagendoom, L.: Forms of racism and the cumulative dimension of ethnic attitudes, *Social Psychology Quarterly*, 56 (1), 21–36, 1993.

18） Sears, D. O., & Henry, P. J.: The origins of symbolic racism, *Journal of Personality and Social Psychology*, 85 (2), 259–275, 2003.

19） Melican, D. B., & Dixon, T. L.; News on the net: Credibility, selective exposure, and racial prejudice, *Communication Reseach*, 35, 151–168, 2008.

20） Gerbner, G., Gross, L., Morgan, M., & Signoreilli, N.: Charting the mainstream: Television's contributions to political orientations, *Journal of Communication*, 32, 100–127, 1982.

21） Tyler, T. R.: Impact of directly and indirectly experienced events: The origin of crime-related judgments and behaviors, *Journal of Personality and Social Psychology*, 39 (1), 13–28, 1980.

22） Stroud, N. J.: Media use and political predispositions: Revisiting the concept of selective exposure. *Political Behavior*, 30(3), 341–366, 2007.

23） Sidanius, J., Pratto, F, & Bobo, L.: Social dominance orientation and the political psychology of gender: A case of invariance? *Journal of Personality and Social Psychology*, 67 (6), 998–1011, 1994.

24） Johnson, M. K. & Marini, M. M.: Bridging the racial divide in the United States: The effect of gender, *Social Psychology Quartley*, 61 (3), 247–258, 1998.

25） Elvestead, E. & Blekesaune, A.: Newspaper readers in Europe: A multilevel study of individual and national differences, *European Journal of Communication*, 23 (4), 425–447, 2008.

26） Kiesler, S., Siegel, J., & McGuire, T.: Social psychological aspects of computer-mediated communications, *American Psychologist*, 39 (10), 1123–1134, 1984.

27） Ybarra, M. L. & Mitchell, K. J.: How risky are social networking sites? A comparison of places online where youth sexual solicitation and harassment occurs, *Pediatrics*, 121 (2), 350–357, 2008.

28） 高比良美詠子・安藤玲子・坂元章：縦断調査による因果関係の推定：インターネット使用と攻撃性の関係，パーソナリティ研究，15（1），87–102，2006.
(Takahira, M., Ando, R., & Sakamoto, A.: Estimation of causal effects through longitudinal study: An example of internet use and aggression, *The Japanese Journal of Personality*, 15 (1), 87–102, 2006)

29） 安藤明人・曽我祥子・山崎勝之・島井哲志・嶋田洋徳・宇津井成介・大芦治・坂井明子: 日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙（BAQ）の作成と妥当性，信頼性の検討，心理学研究，70（5），384–392，1999.
（Ando, A., Soga, S., Yamazaki, K., Shimai, S., Shimada, Y., Oashi, O., & Sakai, A.: Development of the Japanese version of the Buss-Perry aggression questionaire (BAQ), *The Japanese Journal of Psychology*, 70 (5), 384–392, 1999）

30） Bandura, A.: Self-efficacy: Towards a unifying theory of

behavioural change, *Psychological Review*, 84 (2), 191–215, 1977.

31）Lee, K. M.: Effects of internet use on college students' political efficacy. *Cyberpsychology & Behavior*, 9 (4), 415–422, 2006.

32）Dixon, T. L., & Linz, D.: Overrepresentation and underrepresentation of African Americans and Latinos as lawbreakers on television news, *Journal of Communication*, 50 (2), 131–154, 2000.

33）高史明：Twitterにおけるコリアンについての言説の分析，日本社会心理学会第53回大会発表論文集，p.311，2012.

34）高史明：日本語Twitterユーザーのコリアンについての言説の計量的分析，人文研究，183，131–153，2014.
(Taka, F.: A quantitative analysis of Japanese Twitter user's public opinion of Koreans, *Studies in Humanities*, 183, 131–153, 2014)

35）藤田智博.（2011）．インターネットと排外性の関連における文化差–日本・アメリカ比較調査の分析から，年報人間科学，32，77–86，2011.
(Fujita, T.: Cultural difference in the relationship between internet usage and exclusive nationalism: An analysis of comparative surveys of Japan and the US, *Annals of human sciences*, 32, 77–86, 2011)

36）Duriez, B., Van Hiel, A., & Kossowska, M.: Authoritarianism and social dominance in western and eastern Europe: The importance of the sociopolitical context and of political interest and involvement, *Political Psychology*, 26, 299–320, 2005.

37）佐藤哲也・杉岡賢治・内藤孝一: インターネット利用者の政治意識，日本社会情報学会学会誌，15（2），27–38，2003.
(Satoh, T., Sugioka, K., & Naitou, K.: Political conciousness of internet users. *The Japan Associations for Social Informations*, 15 (2), 27–38, 2003)

38）荻上チキ：ウェブ炎上：ネット群衆の暴走と可能性, 東京：筑摩書房，2007.

39）法務省入国管理局：平成25年末現在における外国人登録者統計について（確定値），2014.

40）Zárate, M. A.: Racism in the 21th Cetury, In T. Nelson (Ed.), *Handbook of prejudice, stereotyping, and discrimination*, pp. 387–406, New York: Psychological Press, 2008.

41）race: In *The New Oxford American Dictionary, 2nd edition (kindle edition)*. UK: Oxford University Press, 2005/2008.

# 大学生におけるインターネット利用と右傾化

## ―― イデオロギーと在日コリアンへの偏見[1] ――

# Internet Use and Leaning to the Right among College Students:

## Ideologies and Racism against Zainichi Koreans

高　史明*・雨宮　有里**・杉森伸吉***

Fumiaki TAKA, Yuri AMEMIYA and Shinkichi SUGIMORI

学校心理学分野

**Abstract**

Recently, in Japan, prejudicial, reactionary, and conservative behaviors on the Internet, such as *net uyoku* (“Net right” or Internet right-wingers), have become a severe social problem. This article investigates the underlying characteristics of the right-wing and prejudicial tendencies of those who are exposed to the Internet. College students who spend more time on the Internet have a high level of old-fashioned and modern racism toward Zainichi Koreans (McConahay, 1986; Taka, 2013; Taka & Amemiya, 2013) and tend to exhibit stronger social dominance orientation (Pratto, Sidanius, Stallworth, & Malle, 1994) but do not show a high level of right-wing authoritarianism (Altemeyer, 1996) and low level of feeling thermometer. SEM analysis revealed that exposure to the Internet are significantly related to higher level of social dominance orientation, have significant effect on modern racism, and have marginally significant effect on old-fashioned racism. Reading newspapers is marginally related to right-wing authoritarianism. Their degree of exposure to traditional media (i.e., television and newspapers) is not related to racism and social dominance orientation.

Keywords: Social Dominance Orientation, Right-Wing Authoritarianism, Ethnic Prejudice, Modern Racism, Old-fashioned Racism

*Department of School Psychology, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan*

**要旨：** 近年，いわゆる“ネット右翼”のようなインターネット上の偏見に満ちた保守反動的な言動が深刻な社会問題となっている。本研究はインターネットに多く接触する人々がどのような意味で保守的であり，偏見を抱いているかを検討した。インターネットの使用時間が長い大学生ほど在日コリアンへの古典的レイシズムおよび現代的レイシズム（McConahay，1986；高，2013；高・雨宮，2013）が強く，社会支配指向（Pratto, Sidanius, Stallworth, & Malle, 1994）も強い傾向があったが，右翼的権威主義（Altemeyer, 1996）及び感情温度とは相関はなかった。構造方程式分析により，インターネットとの接触は社会支配指向と相関し，現代的レイシズムを強め，古典的レイシズムも強める傾向があることが明らかになった。新聞の講読は右翼的権威主義と

* Kanagawa University / Tokyo Gakugei University
** Tokyo Jogakkan College
*** Tokyo Gakugei University（4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan）

相関していた。伝統的なメディア（テレビ・新聞）との接触量は社会支配指向及び偏見とは関係していなかった。

キーワード: 社会支配指向，右翼的権威主義，民族偏見，現代的レイシズム，古典的レイシズム